

令和5年度

学校運営方針



京都市立朱雀第七小学校

令和5年度 学校運営方針

1. 教育理念 「学校とは、子どもの尊い命と無限の可能性をあずかるところである」

この理念のもと、学校が児童や保護者、あるいは地域から信頼されるために、「信頼と活力のみなぎる学校」を創造することが必要不可欠である。

2. 学校教育目標

『自分のよさを磨き、つながりを大切にする子どもの育成』
～自ら考え、判断し、自信をもって行動する姿を求めて～

★京都市の「京都市令和5年度 学校教育の重点」より

—京都市の目指す子ども像— 「伝統と文化を受け継ぎ、次代と自らの未来を創造する子ども」

一人一人の子どもを徹底的に大切にする京都市の教育

3つの姿

- 広い視野と豊かな感性を持ち、よりよい人生や社会を創造できる
- 様々な学びを生かし、社会的・職業的自立を果たすことができる
- 多様な他者と共に生き、学び合い、人権文化の担い手となることができる

全教職員で進める学校園づくり 5つの柱

1. 『いのち』 ～子どもの命を守りきる～
2. 『よりそい』 ～多様な子どもを誰一人取り残さない教育を進める～
3. 『つとめ』 ～教職員の職責を自覚し、研鑽することで、教育の質を高める～
4. 『ひろがり』 ～カリキュラム・マネジメントの視点をもって社会に開かれた教育課程を実現する～
5. 『つながり』 ～校種間連携・接続により子どもを支える～

令和5年度 重視する視点

- 子どもの「主体性」と「社会性」の育成を目指し、

「自ら学ぶ力」と「自ら律する力」を 学校・幼稚園全体の教育活動の中で高める。

小・中学校期における

「自ら学ぶ力」…学ぶことに興味や関心を持ち、進路や将来の生き方と関連付けながら目標実現への見通しを持って粘り強く取り組むとともに、自己の学習活動を振り返り、学びをよりよい方向に調整し、他者とも協働できる力

「自ら律する力」…地域・社会との関わりの中で、他者への思いやりや寛容、人と人の絆の大切さを実感し他者と協調しつつ、自らの生活や人生、地域・社会をよりよくするため、時と場に応じた正しい判断と行動ができる力

- 1 主体的・対話的で深い学びを重視した授業を通して、学びの質を高める
- 2 日々の授業と家庭学習との連動を通して、自学自習の習慣化を図る
- 3 自他を大切にし、「公共の精神」に基づく態度を育む

★よんきゅう絆プロジェクトより

小中一貫教育目標

未来を拓き しなやかに生きる子どもの育成

【身に付けたい資質・能力】 課題解決力・コミュニケーション力

【目指す子ども像】

- ・自ら進んで学習する子
- ・自ら考え表現できる子
- ・他者との関わりを大切にし、正しく判断・行動する子

3. めざす学校像

- * 誰一人悲しい思いをせず、みんなが安心して過ごせる学校
- * 子どもたちが夢中になって学び、主体的・対話的な学びを実現できる学校
- * 教職員が一丸となって、粘り強く取り組む学校
- * 保護者や地域との信頼関係のある学校（家庭、地域と共に高め合う）

4. めざす教職員像

～責任をもち学校経営に協働的に参画する～

- * 子どもに寄り添い 愛情をもってかかわる教職員
- * 真摯に学力向上に取り組む教職員
- * 自己の職能を伸ばすために研鑽を重ね、切磋琢磨し合う教職員
- * 日々の教育活動を見直し、「働き方改革」を進め、より一層の教育の質の向上を図る教職員

5. めざす学校像・教職員像の実現に向けて

◎教職員の意識改革と資質・能力の向上

- チームとして、一丸となって学校経営に参画する意識を一人一人がもてるように心掛ける。
- 一人一人の子どもを徹底的に大切にし、教職員が共通理解しながら取り組めるようにする。
- 話し合う場を大切に、皆でやると決めたことは、最後まで徹底して指導しきる。
- 教職員一人一人が自らの課題を明らかにし、授業力向上のため自己研鑽に励み、自分のキャリアステージに応じた授業力や専門性を身に付ける。
- 常に、社会の変化を捉え、生涯を通じて探究心を持ちつつ、自律的かつ継続的に学び続ける。
- 丁寧な言語環境となることを心掛け、笑顔あふれる教職員・子どもの見本となる言動・地域や保護者への丁寧な対応に努める。

◎開かれた学校づくりの推進

- 地域・保護者と共に子どもを育てるという意識をもつようにする。学校運営協議会を活かした「地域ぐるみの学校づくり」に努める。また、保護者・地域への発信を積極的に行う。
(学校だより、学年だより、学級通信、HP 等)

◎教育環境の整備

- 意欲高まる環境、安全な環境、心地よい環境をめざす。自分の職種、立場を自覚し、何ができるのかを模索し、他の職員の仕事ぶりをお互いに尊重し合い、感謝し合う。

6. めざす子ども像

- *すすんでまなぶ子 自分の考えをもち、自ら表現する子 (確かな学力)
- *思いやりのある子 認め合い、共に高まり合う子 (豊かな心)
- *たくましい子 心と体を大切にする子 (健やかな体)

7. めざす子ども像の実現に向けて

①すすんでまなぶ子 自分の考えをもち、自ら表現する子 (確かな学力)

- ・学習するときのルールしっかり身に付け、主体的に考え表現する子
- ・基礎的・基本的な知識・技能を習得し活用する子
- ・友達と関わり合いながら自分の学びを深める子
- ・自らの学習を調整しながら課題を明確にし、粘り強く取り組む子

○普通授業の充実：毎時間の授業を大切にし、主体的な学びを実現できるように授業改善に努める。

※言語活動の充実、学習課題（めあて・目標）に応じた「まとめ」と「振り返り」の徹底

○課外学習や家庭学習の充実：基礎的・基本的な知識・技能の習得を図る。

○全国学力・学習状況調査やジョイントプログラムの活用と結果分析

○読書活動の充実

※本に親しむと共に様々な情報を活用する力を身に付ける。

○GIGA スクール構想の推進（プログラミング教育など ICT 機器などの活用・情報モラルに関する指導）

○保幼小連携の取組（架け橋プログラム）・小中一貫の取組（よんきゅう絆プロジェクト）

②思いやりのある子 認め合い、共に高まり合う子 (豊かな心)

- ・豊かな感性を育み、生活を楽しく豊かにしようとする子
- ・自分なりの新たな価値をつくりだす創造性豊かな子
- ・あいさつを交わし、人の話よく聞き、互いを大切に認め合う子
- ・いのち・自然・ものを大切にする子

○普通授業の充実：一人一人の子どもが生き生きと活動する授業（学習集団作り）

○道徳教育及び人権教育の充実

※「しなやかな道徳教育」の実践を推進する。

※こどもが共に学ぶことを人権教育の基盤とする。

○子ども一人一人に届く生徒指導（攻めの生徒指導の実践）

※「見逃しのない観察」「手遅れない対応」「心の通った指導」を組織的に行う。

○特別活動の推進

③たくましい子 心と体を大切にする子（健やかな体）

- ・積極的に運動に親しみ、体を鍛えようとする子
- ・健康に気を付け、適切な生活習慣を身に付ける子
- ・自分の心と体に目を向ける子
- ・安全に対する意識を高くもち行動する子

○体と心の安定と技能の習得

○体力の向上：「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果分析

○健康教育・食教育・安全教育・防災教育の充実

○保健・安全・給食等に関する共通理解の徹底